

## CTがん検診コースにおける各検査の目的部位とその有効性について

検査	目的部位													内 容
	甲状腺 がん	肺 がん	乳 がん	胃 がん	肝 臓 が ん	胆 囊 が ん	脾 臓 が ん	腎 臓 が ん	大 腸 が ん	膀 胱 が ん	前 立 腺 が ん	子 宮 体 が ん	卵 巣 が ん	
胸部C T	○	◎	△											X線を使用し胸部をらせん状に輪切り断層撮影し、肺や気管、気管支などの病変を調べます。従来の胸部X線検査では発見しづらかった心臓や骨に隠れた1cm以下の病変も発見できます。特に、肺がんの診断には、欠かせない検査です。
腹部C T				△	○	△	○	○	△	○	△	△	○	X線を使用し上下腹部をらせん状に輪切り断層撮影します。肝臓、胆のう、脾臓、腎臓、脾臓、腹部大動脈血管の周囲や大腸、小腸の周囲までの病変を検査します。肝臓がん等の腫瘍性変化、結石、胆のう炎、脾炎、解離性大動脈瘤などを調べます。
腫瘍マーカー PSA											◎			前立腺がん・前立腺肥大・前立腺炎等で高値になることがあります。
ABC検診				※										血液検査で胃がんの“発症リスク”を調べる検査です。 (現在から将来の胃がんリスクを評価する検査であり、胃がんを見つける検査ではありません。)

- ◎ ..かなり有効
- ..有効
- △ ..有効な場合もある
- ※ ..リスク評価

作成日：令和3年3月10日  
 医療法人豊田会  
 刈谷豊田総合病院 健診センター